

入選

私の地域と水

私が住んでいる富山県には、七つの大きな川があります。この川の近くには、ゴールドウインやコカ・コーラ砺波工場など、大きな会社があります。工場が水の近くにある理由とは何か考えてみました。

水は、化学工業や鉄鋼業、農業や飲食業など、ほとんどの産業で必要とされます。工場では機械の冷却や洗浄など、たくさんのお水を使います。例えば、木綿のシャツを一枚作るのに二千六百五十Lもの水が必要です。海や川は産業の資源となり、工場が海や川の近くに多いのは、排水がしやすいというメリットがあるからです。そのため、海や川の近くに工場が立地しています。現在では、ほとんどの企業が使用した工業用水を、自社できれいにして川へ流しています。大量に使う水を節約しようと、それぞれの工場が努力しています。工場における水の使用量は、産業の発展と共に一九六五年から、二〇〇〇年までに、約3倍に増えました。ですが、補給率は一九七三年から少しずつ減ってきています。それは、多くの工場が一度使った水を捨ててしまわずに、回収して再利用するようになったからです。これから産業を発展していくうえで、水は必要不可欠だということ、それぞれの会社が責任感をもって水の節水、水のリユースを行っていることが分かりました。

ですが、水が資源で再利用できるようにもなっても、水を使いすぎたりすると、課題がでるのではないかとこの点です。水は汚れていたり、プラスチックゴミなどが入っている場合は使えません。海や川のゴミ問題も関わっています。二〇〇五年には「バーチャルウォーター」という輸入方法が加わり、日本と海外では、バーチャルウォーターの輸入で関係がつながっています。私たちが日常的に食べているものは、大量の水が使われているという認識をもつことが大事です。

産業では水の近くにあることで発展していきました。これから水は

小矢部市立津沢中学校 二年 三輪 ゆあ

「資源」となり、技術の高上には不可欠なものだと思います。また、水全体をきれいにすることで、街も川も空気もきれいになり、人間だけでなく動物や植物も気持ちよく暮らせることができます。私は、学校でも川、海、道の清浄の活動をつくれればいいと思います。島国である日本だからこそ、水を大事にしていければと思います。